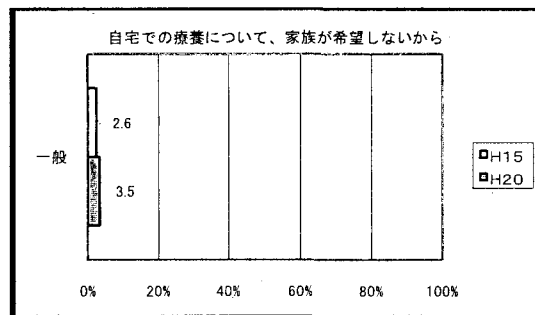
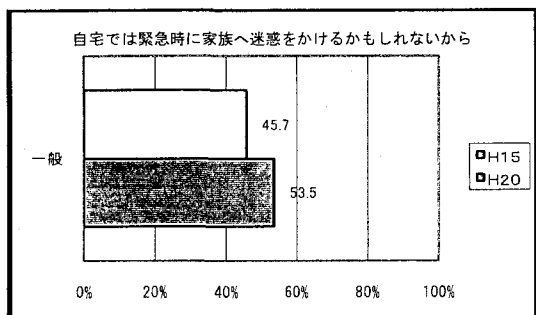
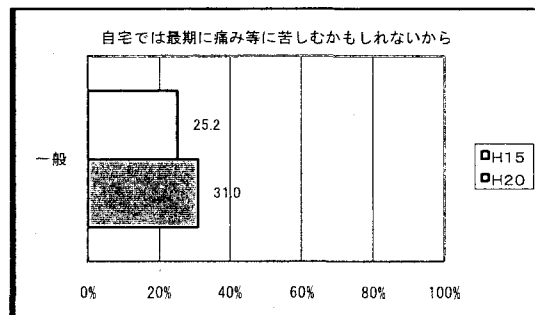
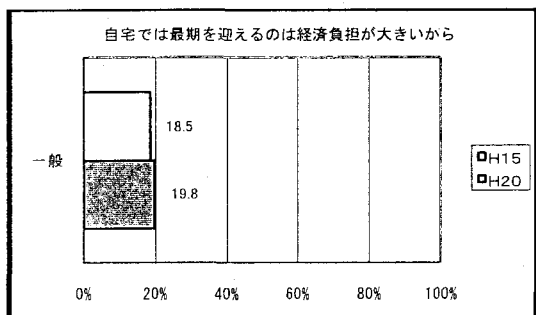
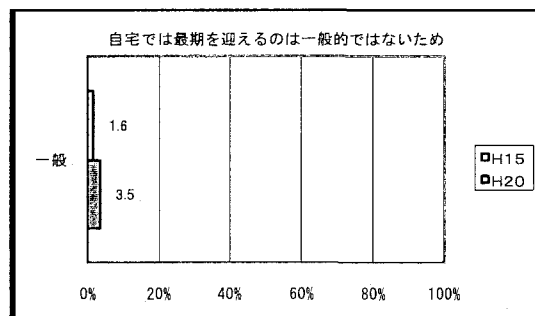
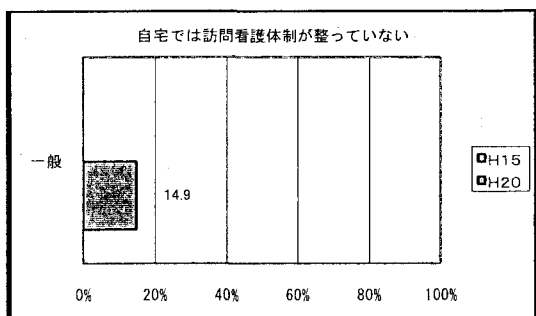
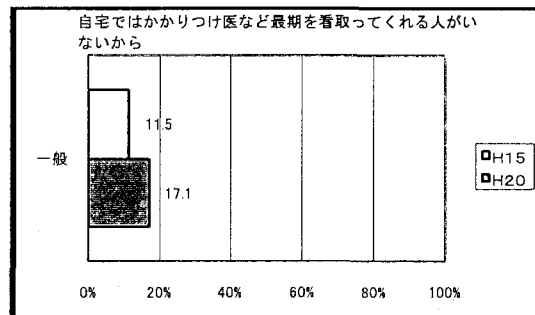
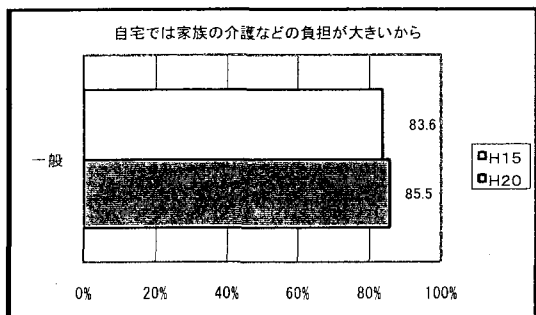
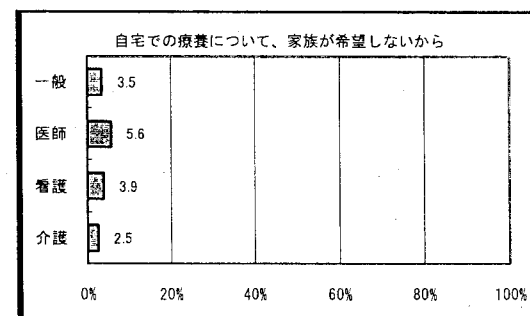
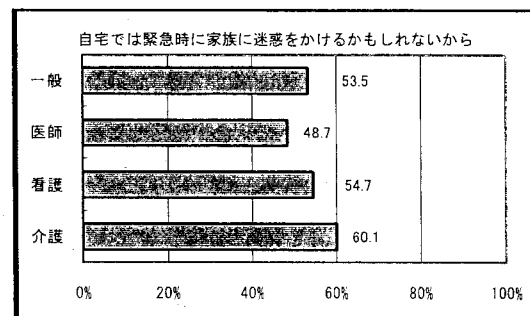
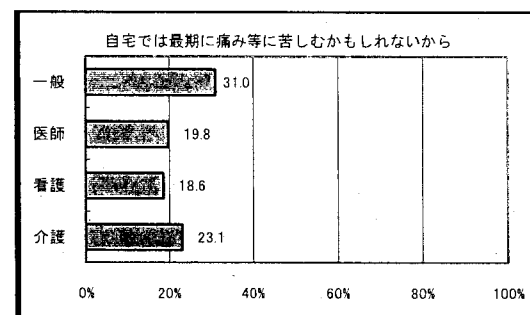
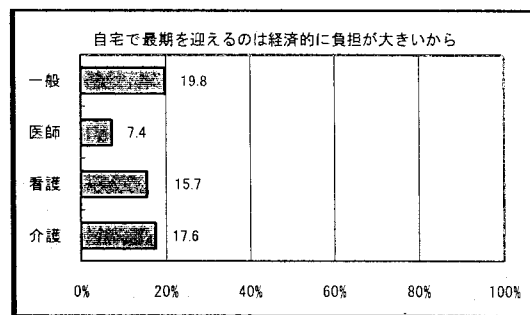
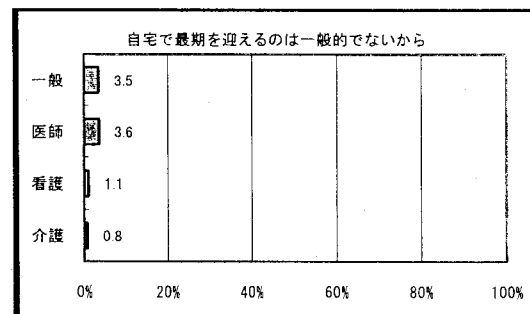
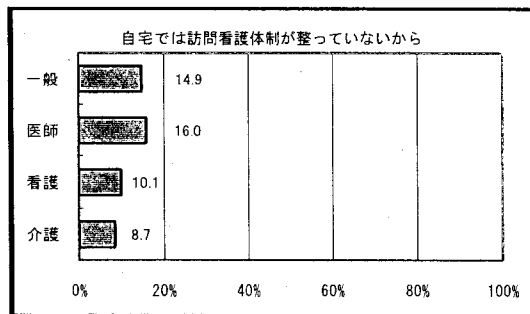
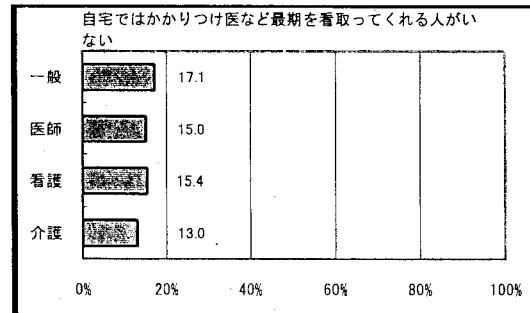
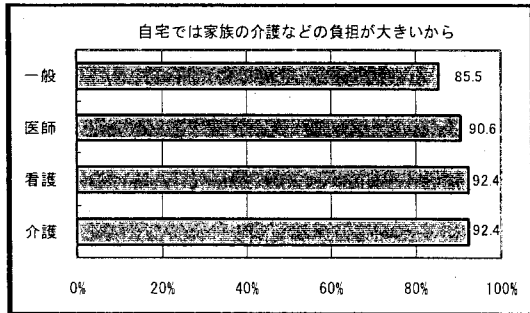
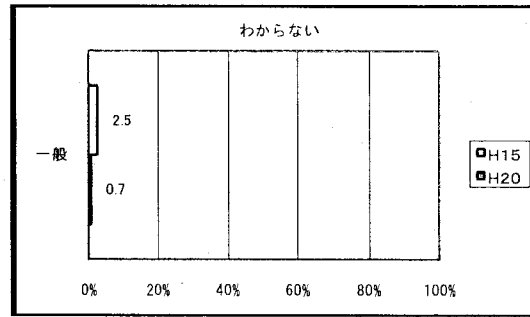
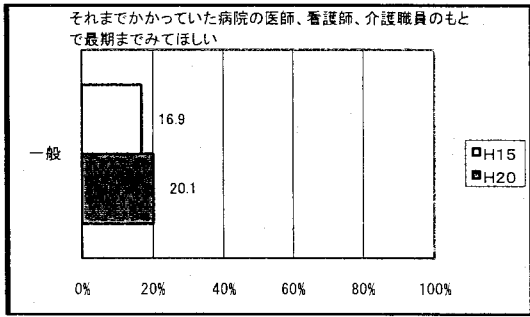


【問 56 自分が高齢となり、脳血管障害や認知症等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みのない状態になった場合、自宅以外で最期まで療養したい理由(問 53 で「病院」「老人ホーム」「その他」と回答した者を対象)】

「家族の介護などの負担が大きいから」、「緊急時に迷惑をかけるかもしれないから」と回答した者の割合が多かった(図 137)。





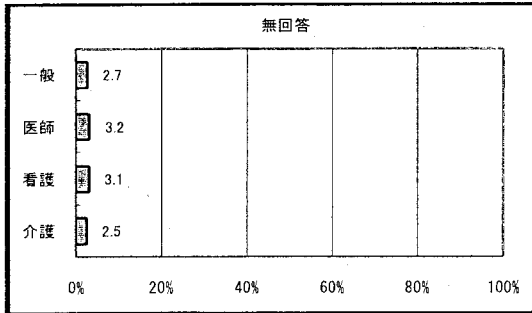
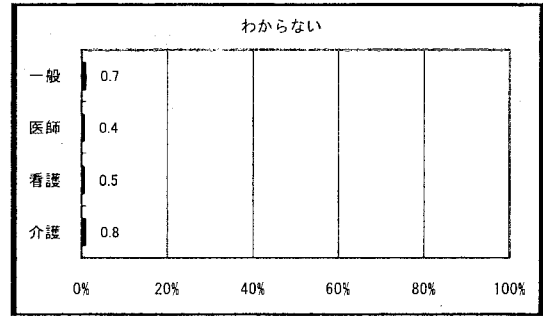
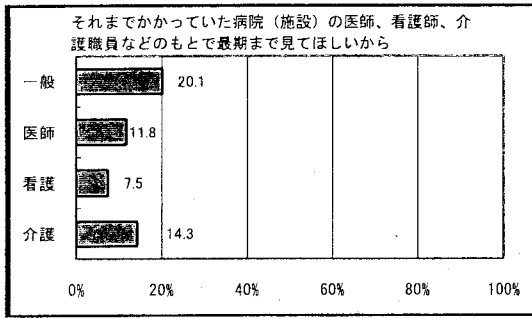


図 137

【問 57 自分の家族や担当する患者(入所者)が高齢となり、脳血管障害や認知症等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みのない状態になった場合、どこで最期まで療養させたいか】

一般国民は「病院」と回答した者の割合が最も多かった。医師は「介護型療養病院」、看護職員は「自宅」、介護職員は「介護老人福祉施設」と回答した者の割合が最も多かった(図138・図139)。

延命医療について家族との話し合いの有無では、一定の傾向は見られなかった(図140・図141)。一般国民においては年代が上がるにつれて、「病院」と回答する者の割合が増加する傾向が見られた(図142・図143)。

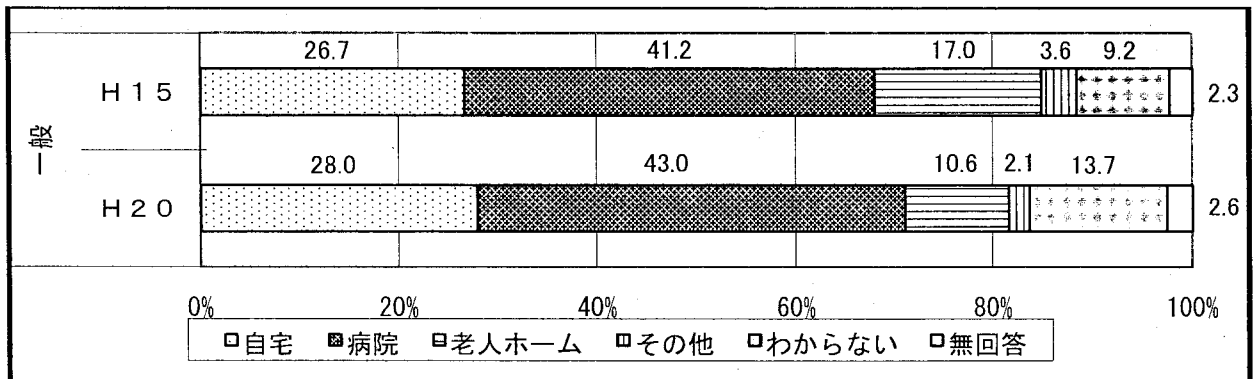


図 138

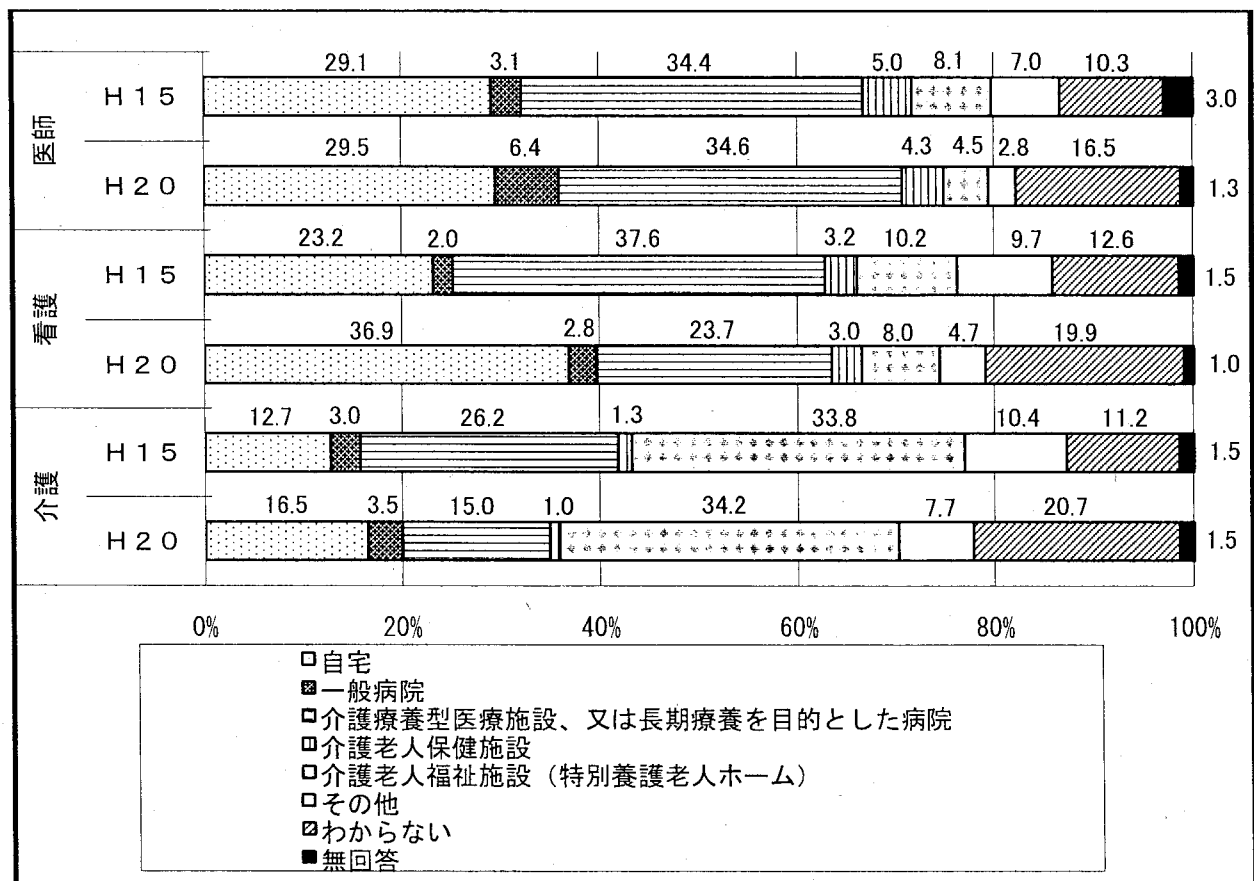


図 139

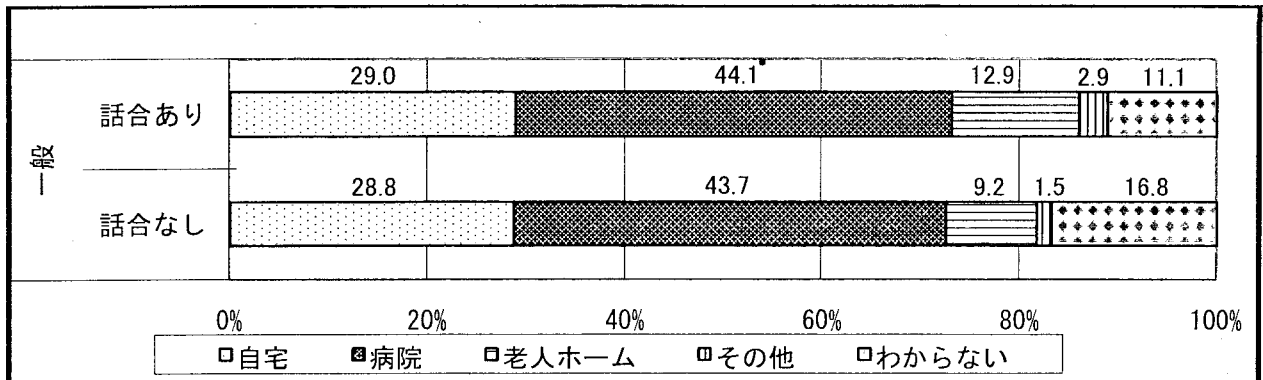


図 140

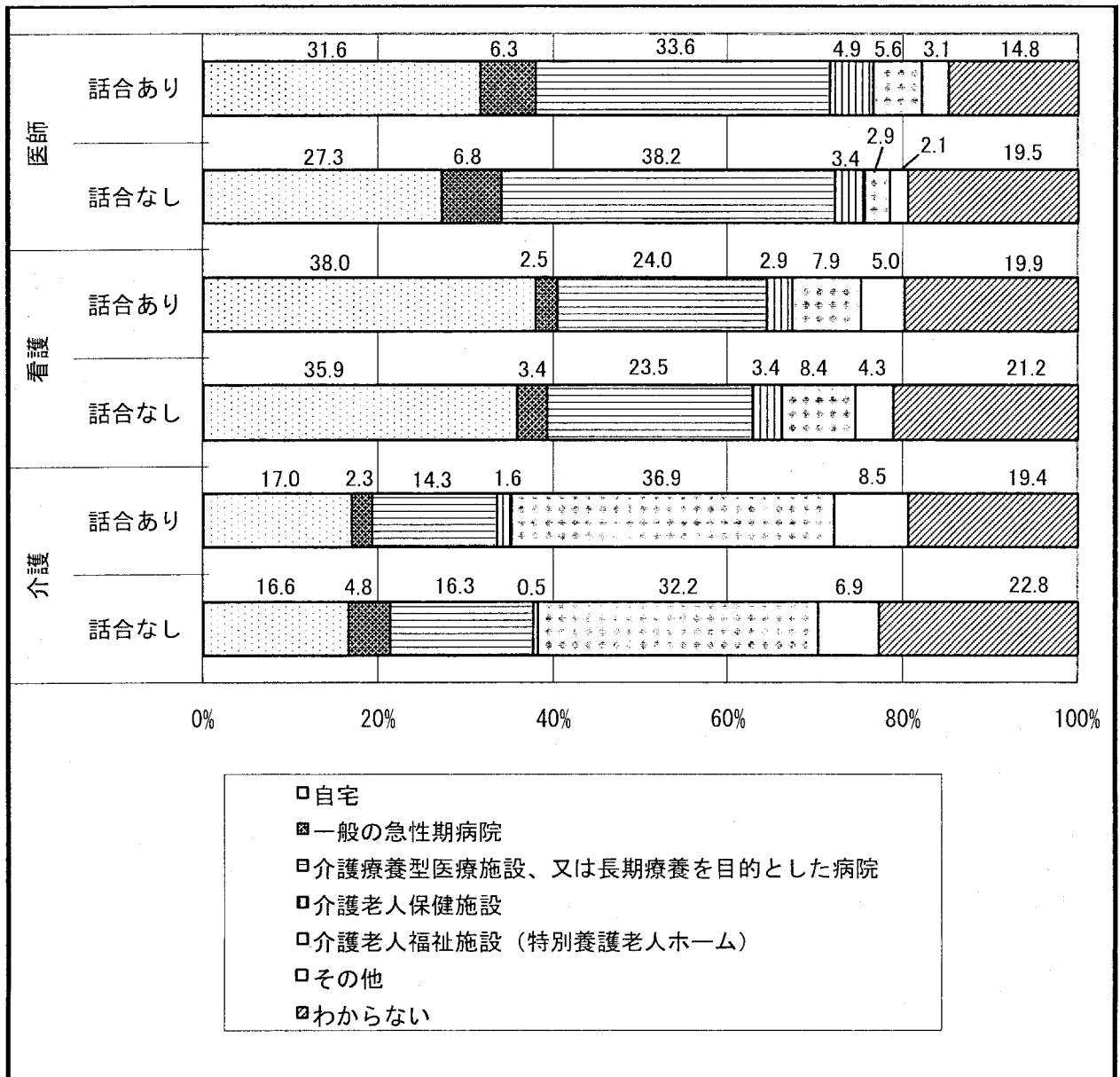


図 141

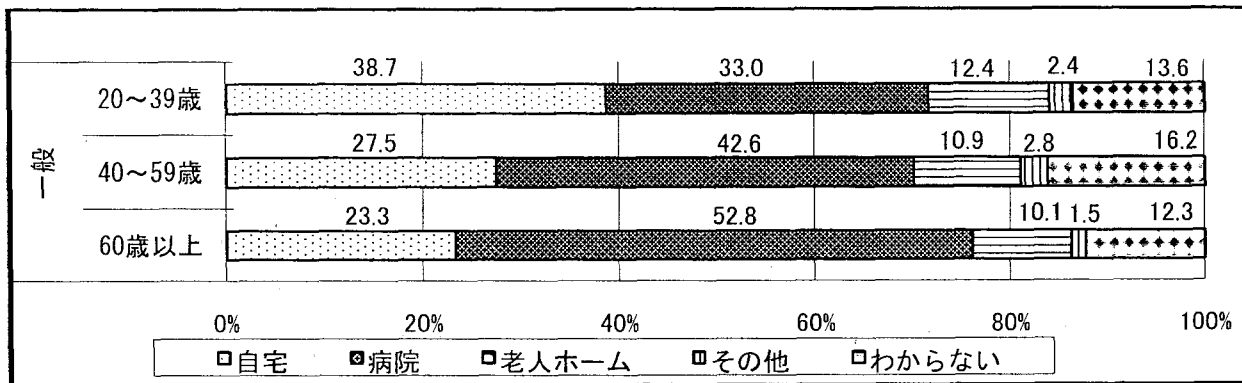


図 142

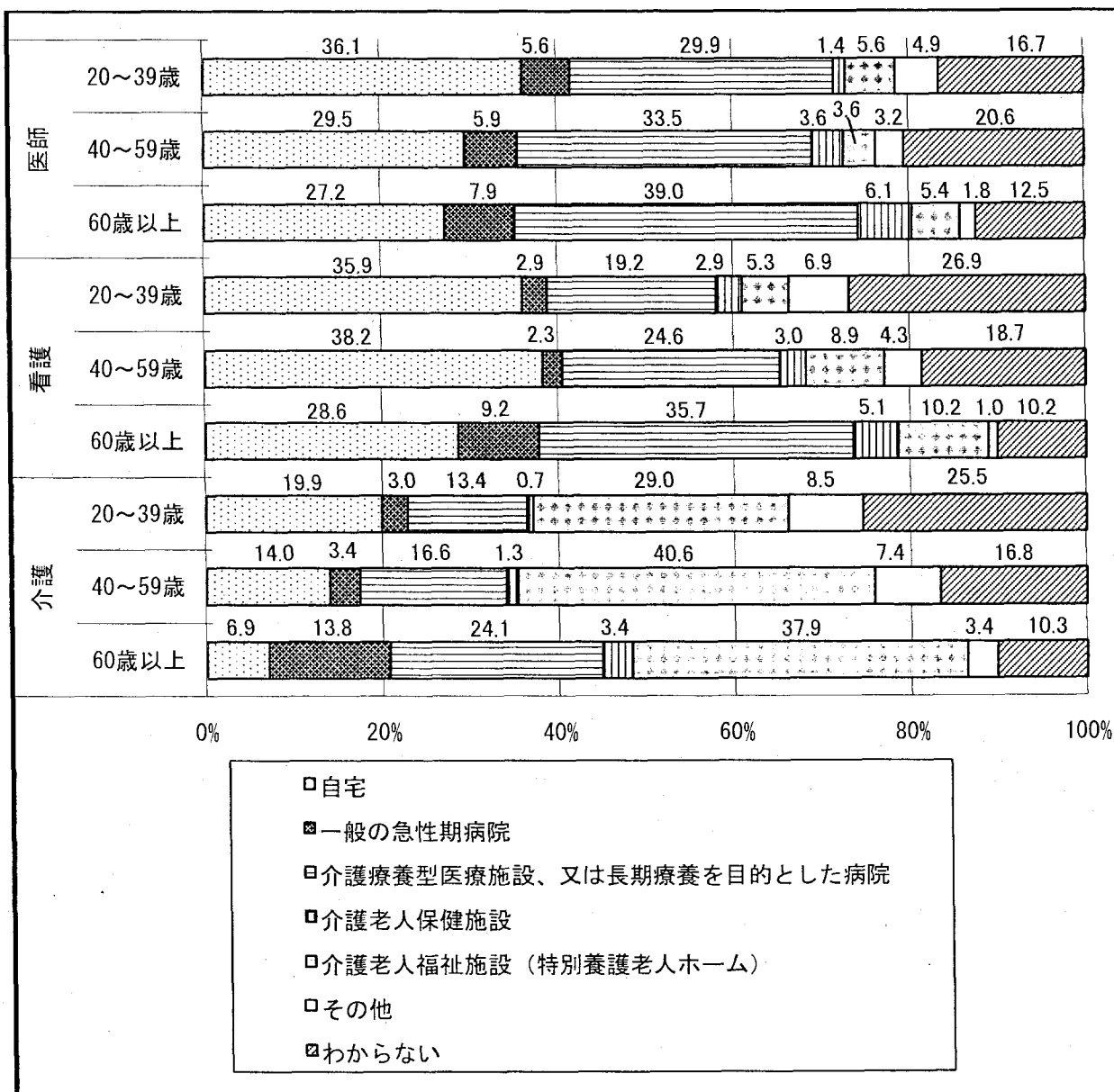


図 143

【問 58 自分の家族や担当する患者(入所者)が高齢となり、脳血管障害や認知症等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みのない状態になった場合、自宅で最期まで療養させたい理由(問 57 で「自宅」と回答した者を対象)】

「住み慣れた場所で最期を迎えさせたい」、「最期まで自分の好きなように過ごさせたい」、「家族との時間を多くしたい」、「家族に看取られて最期を迎えさせたい」と回答した者の割合が多かった(図 144)。

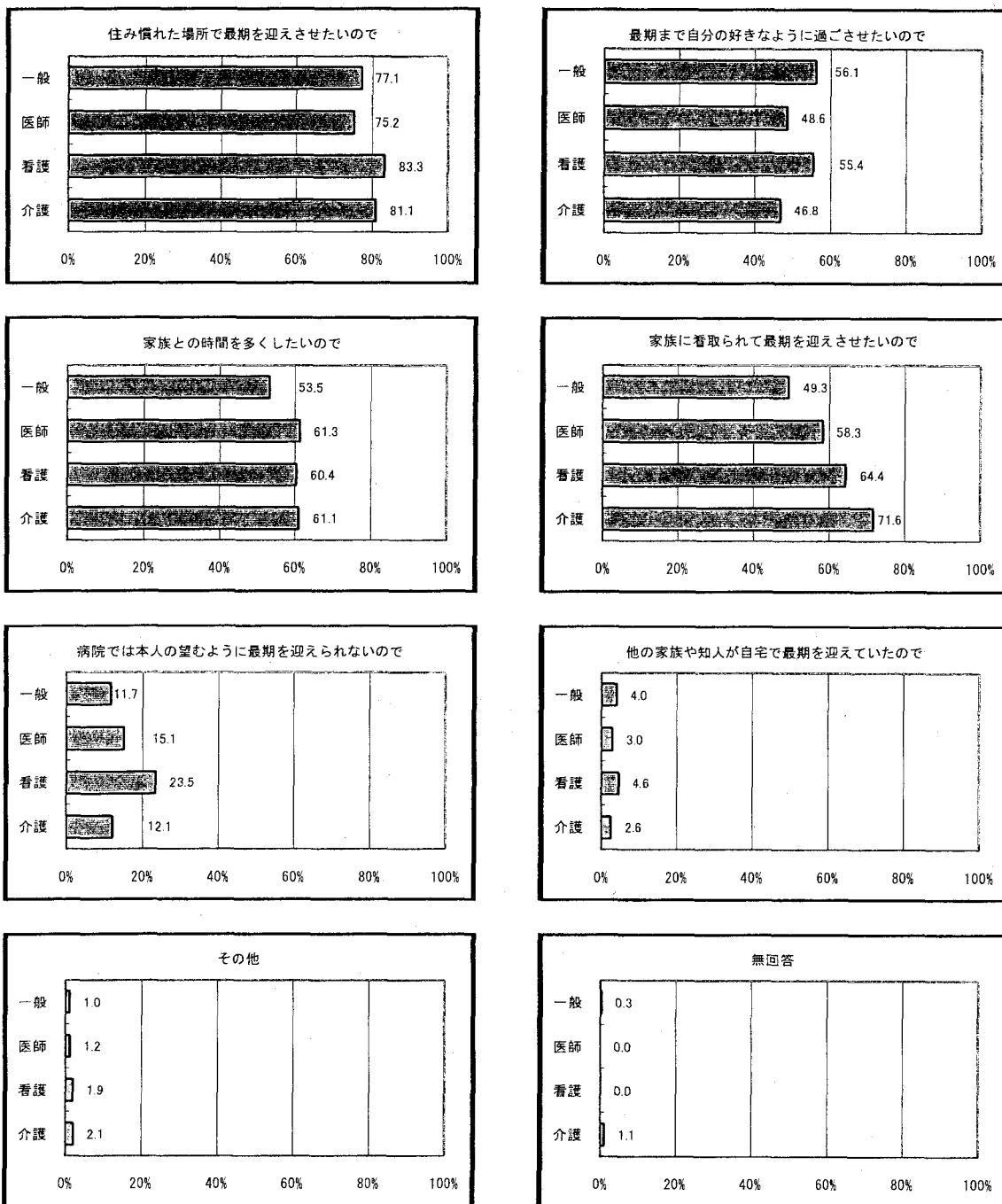
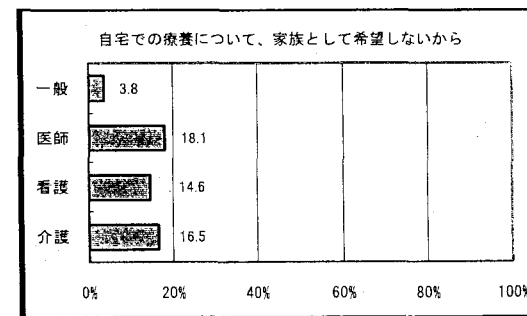
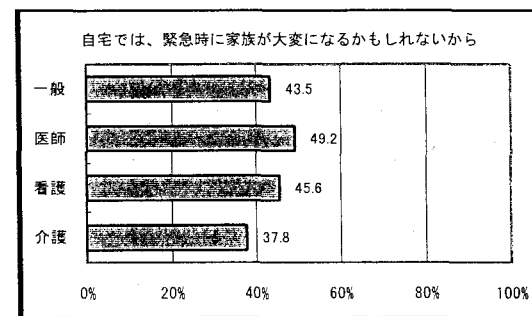
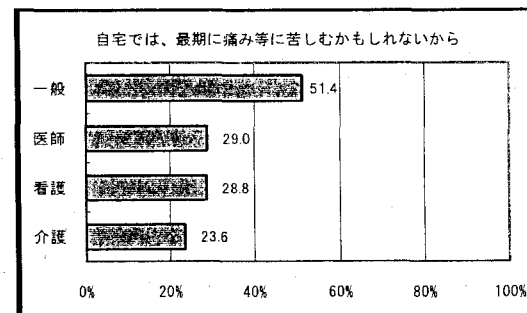
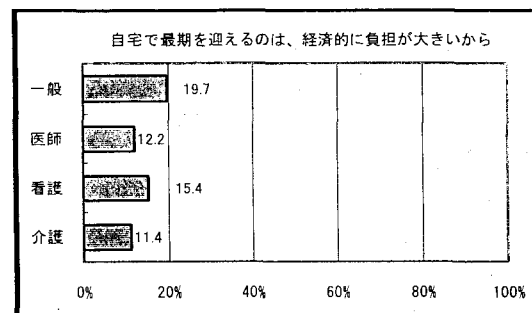
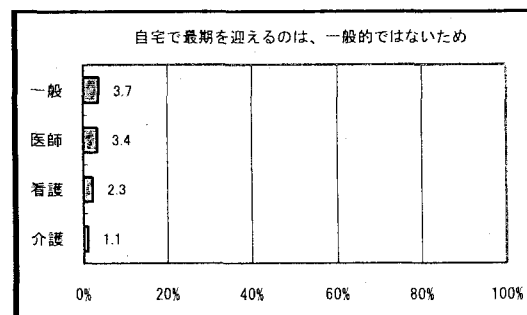
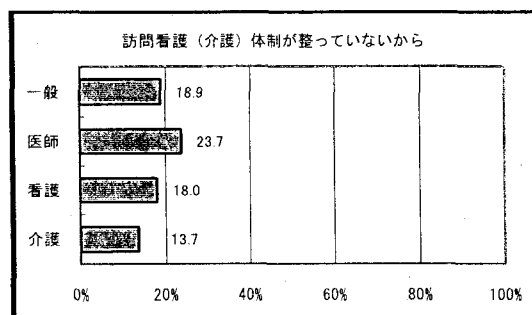
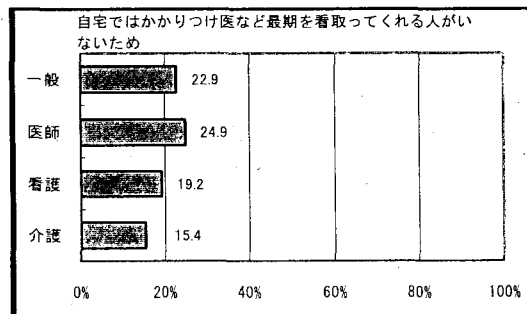
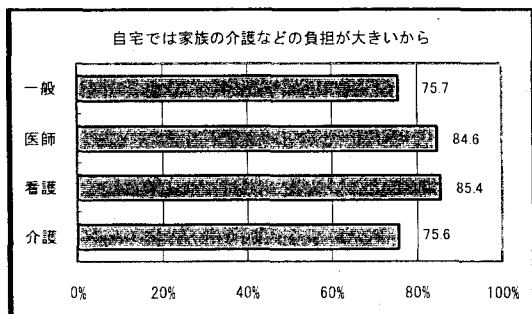


図 144

【問 59 自分の家族や担当する患者(入所者)が高齢となり、脳血管障害や認知症等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みのない状態になった場合、自宅以外で最期まで療養させたい理由(問 57 で「一般病院」「介護療養型医療施設」「介護老人保健施設」と回答した者を対象)】

「自宅では家族の介護などの負担が大きいから」、「自宅では、緊急時に家族が大変になるかもしれないから」と回答した者の割合が多かった。また、一般国民は「自宅では最期に痛み等に苦しむかもしれないから」と回答した者も多かった(図145)。





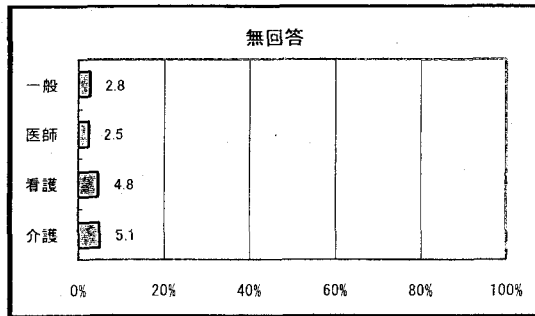
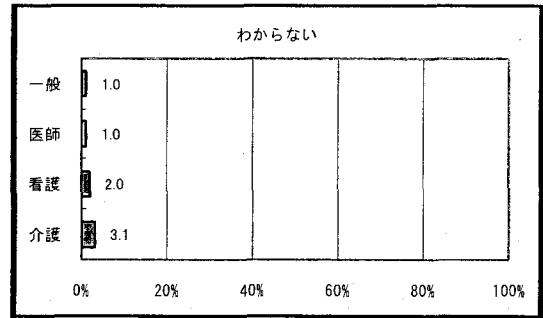
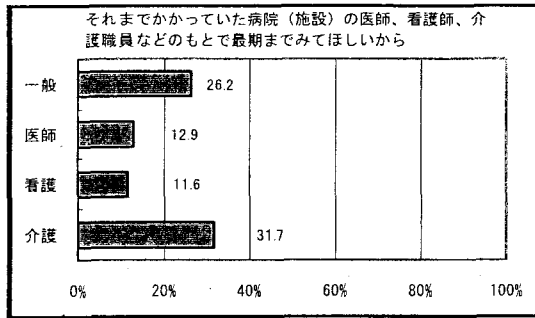


図 145

(10) がん疼痛治療法とその説明

【問 60 (医療福祉従事者対象) 世界保健機関 (WHO) のWHO方式癌疼痛治療法の内容を知っているか】

医師は「内容をある程度知っている」、「内容をよく知っている」と回答した者の方が「知らない」と回答した者よりも多かった。一方、看護・介護は「内容をある程度知っている」、「内容をよく知っている」と回答した者の方が「知らない」と回答した者よりも少なかった。また、医師及び看護職員で「内容をよく知っている」と回答した者の割合は、前年、前々年に比べると微増している傾向が見られた (図146)。

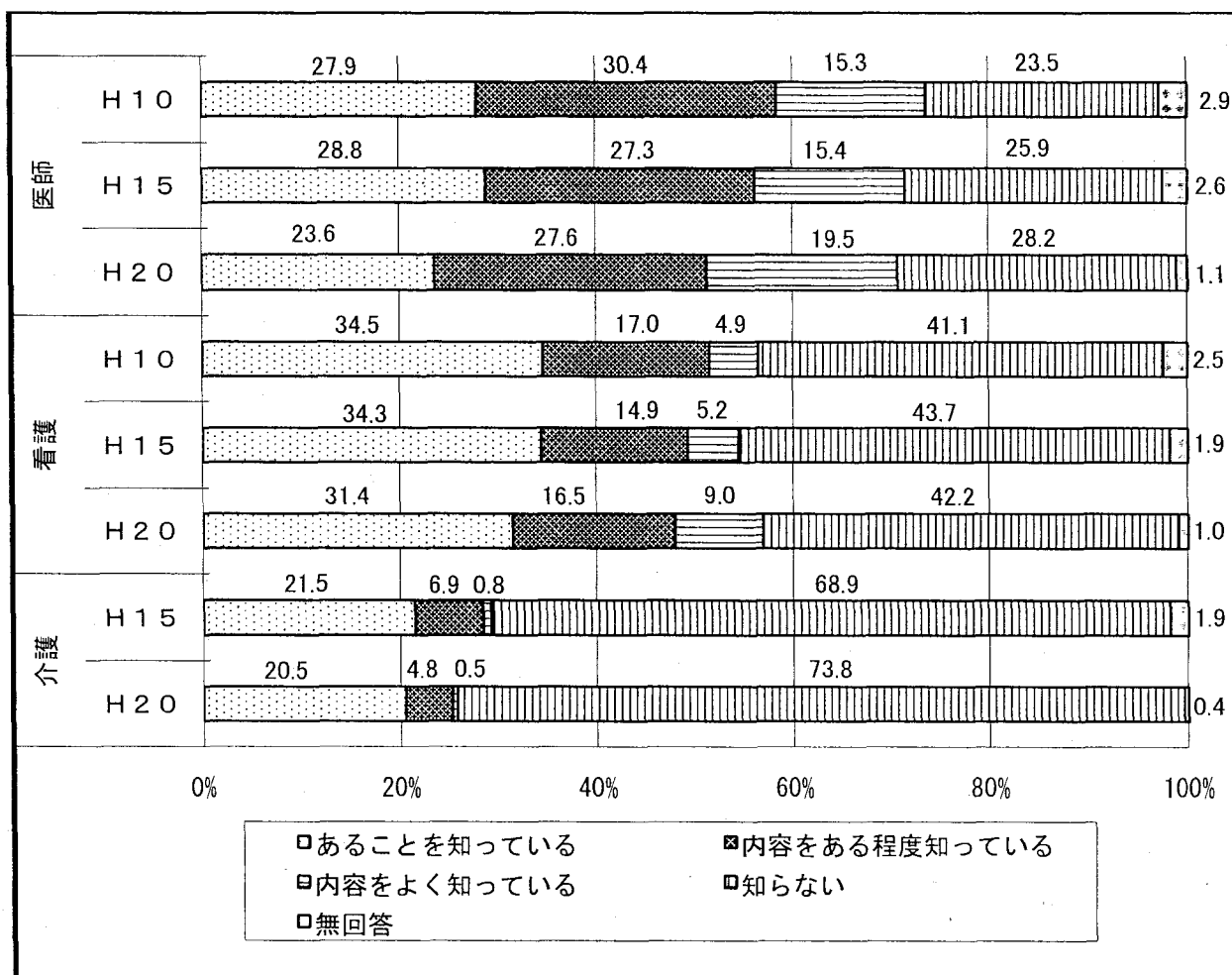


図 146

【問61（医療福祉従事者対象）モルヒネの使用にあたって、有効性と副作用について、患者（入所者）に分かりやすく具体的に説明することができるか】

すべての医療福祉従事者において、「説明することができる」と回答した者の割合が減少し、「説明できない」と回答した者の割合が増加する傾向が見られた（図147）。

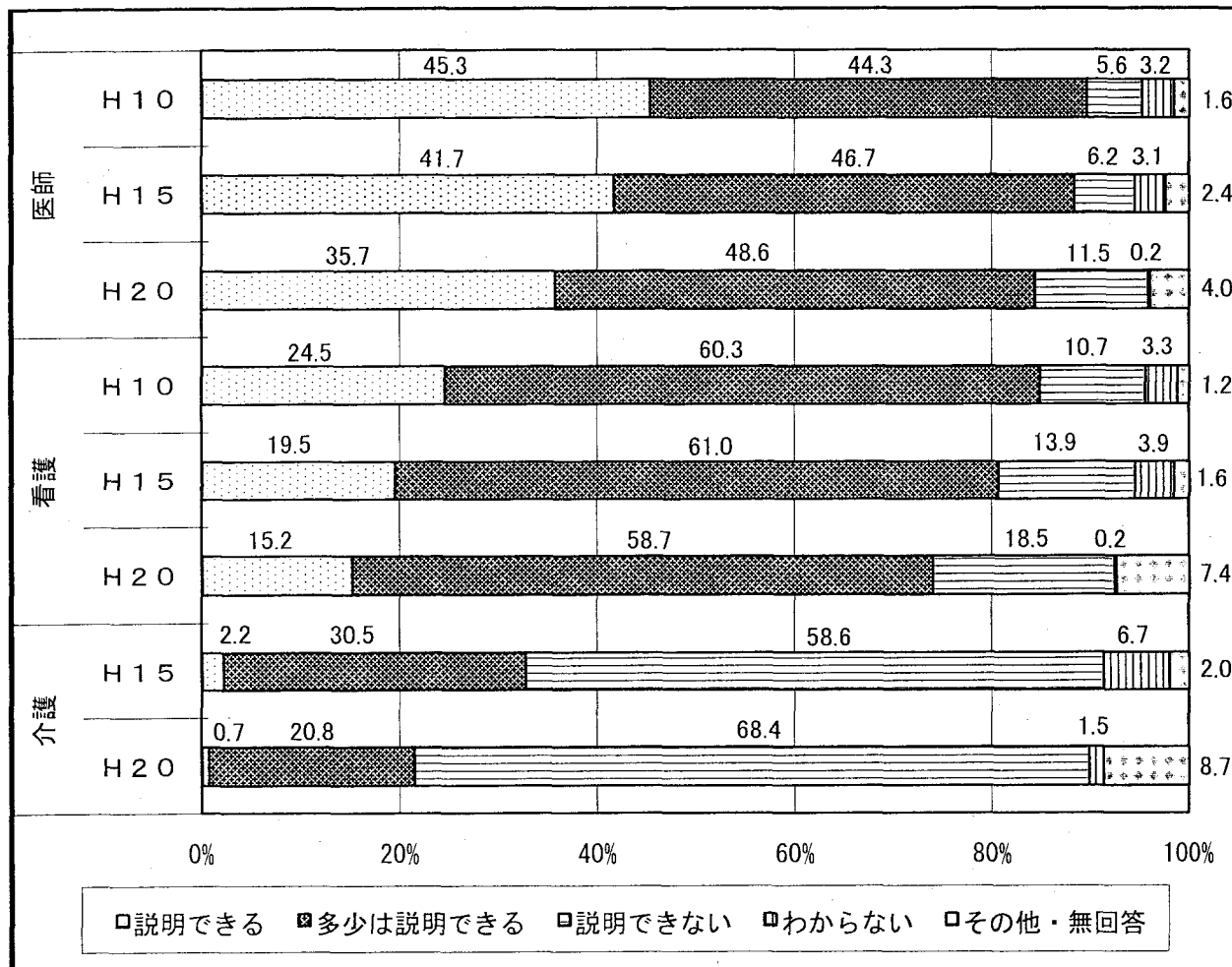
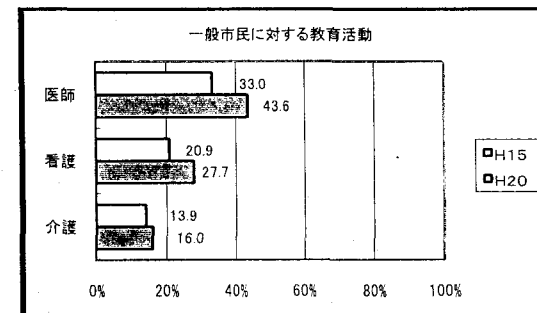
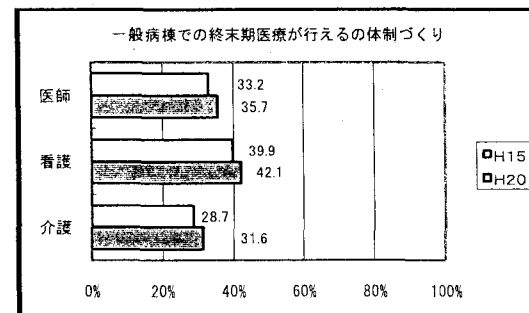
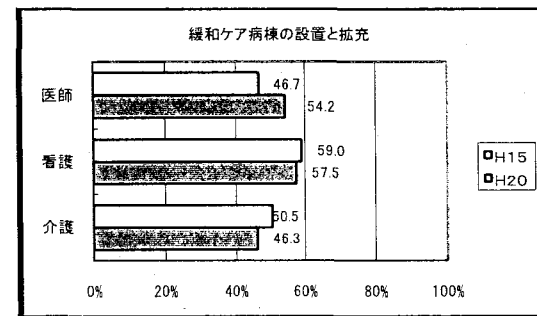
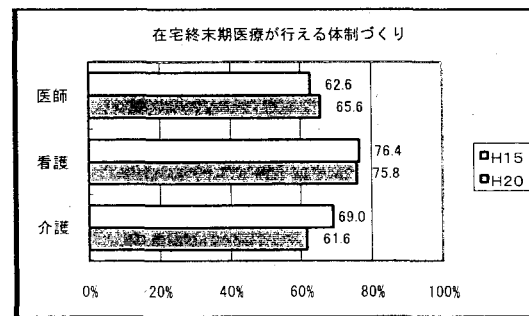
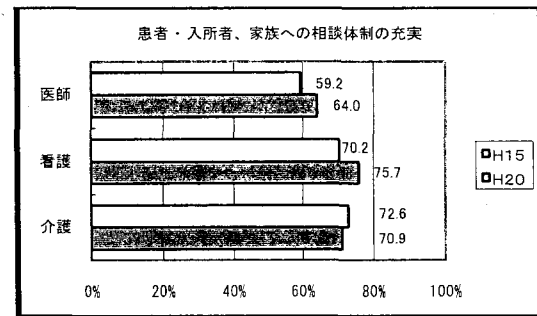
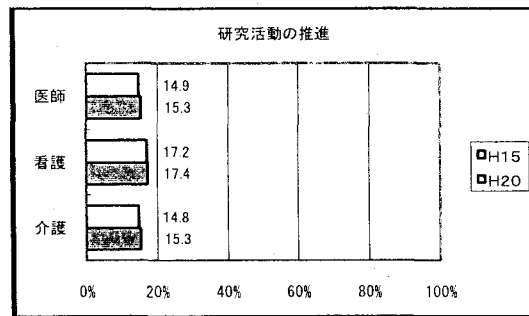
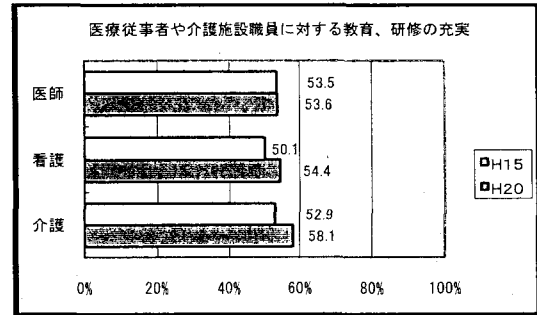
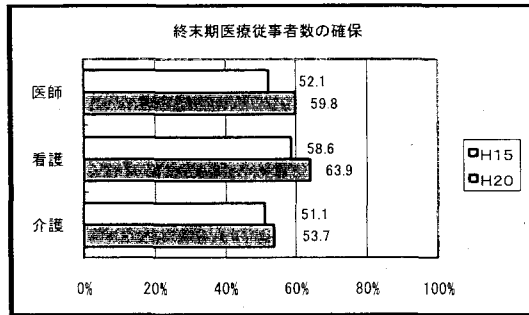


図 147

(11) 終末期医療体制の充実について

【問 62 (医療福祉従事者対象) 終末期医療の普及のために充実していくべき点は何か】

「在宅終末期医療が行える体制づくり」、「患者・入所者、家族への相談体制の充実」と回答した者の割合が多かった(図148)。



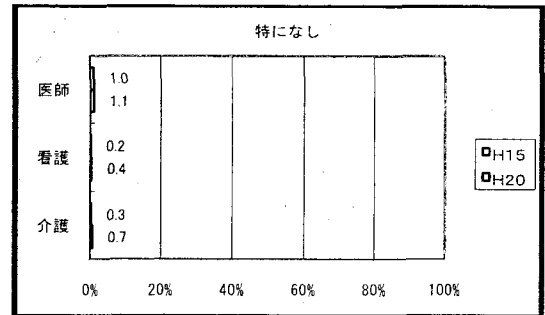
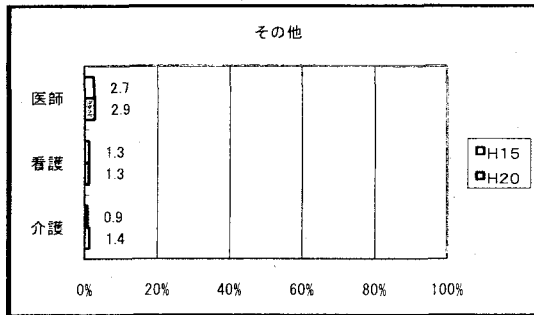
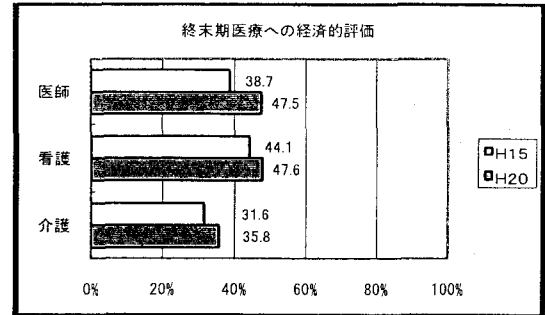
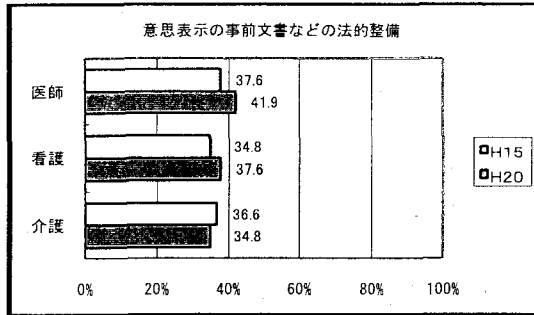


図 148